

平成29年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491600027	事業の開始年月日	平成23年11月1日	
		指定年月日	平成23年11月1日	
法人名	医療法人社団 愛友会			
事業所名	グループホーム あいかわ			
所在地	(243-0303) 神奈川県愛甲郡愛川町中津2328			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	平成29年10月15日	評価結果 市町村受理日	平成30年1月11日	

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様のペースに合わせ、利用者様の思いに温かい心で、寄り添えるパートナーになれるよう努力します。また、利用者様の今までの人生を大切に、ゆっくりと向き合ったケアに努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル3階		
訪問調査日	平成29年11月20日	評価機関 評価決定日	平成29年12月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

小田急線本厚木または海老名駅からバスで約35分、春日団地の一角で諏訪神社の道路向かいにある3階建ての建物です。その2階と3階がグループホームです。1階は同法人で運営している小規模多機能ホームの事業所となっています。

<優れている点>

開設して6年が経過し、徐々に地域に溶け込んでいます。祭りには子ども神輿がホームまで来てくれ、途中の休憩場所となっています。このほか地区の運動会や盆踊りに参加し、地域交流の場となっています。地元の中学生が毎年、体験学習の場として訪れており、地域資源の一つとなっています。ホームの利用者は職員と一緒に華道を楽しむ場面があり、花を身近に見ることで安らぎと季節感を感じるひと時となっています。家族に向けて毎月「月次報告諸」を、日常生活基本動作(ADL)の状況や暮らしの近況報告を添えて送っています。

<工夫点>

介護計画において、各利用者ごと、そのサービス項目を日々の日誌に予め印字し、業務日誌を記入する際に一目瞭然に見て取れるようになっており、記入時の時間短縮となるうえ、職員各自が日々触れることで、常に介護計画の内容を念頭に入れて業務に就くことができるようになっていきます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム あいかわ
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念は、玄関に掲示しています。また、新入職員にも理念を説明し、理念を念頭に置き業務にあたる様説明しています。	管理者は職員に対して、理念は介護をしていく上での大元になるということを伝えていきます。約10cmサイズの大きさのクレドカードには理念が記されており、全職員はこれを所持し、いつでも確認できるようにしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	どんど焼き・盆踊り・地区運動会・公民館まつり・子供みこし等、様々な行事に参加したり、また、当施設の行事には、参加をお願いしています。	地域の祭りでは、子ども神輿がホームに立ち寄って、休憩場所として活用してもらっています。地元の中学生の体験学習として入居者と交流しています。ギター、マンドリン、民謡やチンドン屋などのボランティアの訪問があり、楽しみの時間になっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	中学生職場体験を毎年、実施しています。また、毎月、ボランティアさんにも支援して頂いています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年6回、開催しています。地域包括・地区・ご家族などに参加して頂き、事業所よりの報告、また、様々な情報交換や話し合いを行い、意見をサービス向上に行かせるよう努めています。	運営推進会議は、催しやボランティア交流の日に合わせて開催するなど、参加者がその様子を体験できる機会にもなっています。自治会にはまだ加入できていませんが、地区の運動会に参加するなど、徐々に地域に浸透し努力を重ねています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	役場には度々訪れ、各担当者とは日頃より密に連絡を取り合っています。	判らないことがあると、すぐに役所に出かけるなどフットワークを軽くしています。介護認定の更新時や研修への参加など、行政との連絡を密にし、ホームの空き情報についても連絡しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの実践をしています。玄関の施錠は、やむを得ず、安全のために実施しています。	身体拘束については通年の研修計画に入れており、今年度は3月に実施を予定しています。日常の暮らしの中では、スピーチロックとなる前になぜ、そのような言動を招くのかなど、前へ前へとさかのぼって考えるなど、その原因を追究する姿勢が重要と考えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待についての勉強会を実施しています。また、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	個々に学んでいる職員はいるが、職場での学ぶ機会はなかったため、学ぶ機会を設けていきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、解約時には、十分な説明を行い、理解・納得を得られるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族やご利用者からの要望や意見があった時は、それらを運営に反映させるよう努めています。	家族から、個室のドアを閉めてしまうと他の様子が分からず寂しさを伴うので、入り口に暖簾を下げる提案があり、プライバシーへの配慮も考えて、長めの暖簾れんを下げてもらっています。家族からの電話の際は、連絡あるごとに本人の様子を伝えて、安心してもらっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議・カンファレンス会議などの時に職員の意見や要望を聞いています。また、普段から話しやすい環境作りに努めています。	4月と10月に全職員の個人面談を実施しています。資格取得や研修受講意欲の高い人には、希望に添えるよう、シフト上の配慮をするなど、積極的に対応しています。問題解決時に職員間コミュニケーションの調整に時間がかかることもあります。	新旧職員の情報共有の手段として、これまでに積み上げた「申し合わせ事項」をリスト化し、それを見ることでこれまでの決定事項の履歴が読み取れ、全職員の情報共有手段になることが期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個々に評価を行い、努力している職員にはきちんとした評価をすることで、仕事に対する意欲をもって貰えるよう努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人は職員の資格取得を推奨しています。職場では、ユニット会議等の折に勉強会を実施しています。その他、外部や福祉協議会等で開催される研修を掲示し、参加したい職員には勤務表の変更も考慮し、参加出来る様支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域の介護施設を訪問したり、社会福祉法人等代表者会議に出席したり、交流や情報交換をしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前からアセスメント情報を把握したうえで、本人が安心して暮らすことができるように努めています。また、初期に築く関係は大変重要なことなので、努力しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始時には、ご本人やご家族の話に耳を傾け、不安解消や要望に沿うことができるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所時には、ご本人やご家族の話に耳を傾け、真のニーズを見極めることができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	立場にこだわらず、家で暮らしているような家庭的な雰囲気作りに努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時間に特に制限はなく、ご家族がいつでも面会に訪れることが出来ます。面会に訪れるご家族も多くみられます。ご家族と過ごす時間を大切にしてお互いの環境作りをしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	手紙や電話などご利用者の希望に沿えるよう支援しています。また、散歩や外出でお会いした知人の方々には、施設に遊びに来て頂くよう、お誘いしています。	家族が引率して、これまで通った美容院に行ったり、囲碁の好きな人に向けてボランティアの人に相手を頼んだり、また知り合いの人と一緒に選挙に行くなど、これまで続けたことをホーム入居後も継続できるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションや散歩等の声掛けは、ご利用者全員にしています。ご利用者が孤立しない支援を心掛けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了時には、困った時にはいつでも相談に来てくれるよう声掛けしています。また、契約終了後にも施設に立ち寄ってくれ、ご本人の近況を話して頂いたりという方が、複数おられます。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの意向に添えるよう、職員間で把握するよう努め、その人らしい暮らしが出来るよう支援しています。	月に一度のカンファレンスや、急ぎの時は申し送りの時間を利用して、利用者の意向の把握に努めています。また、その場にはいない職員については「連絡ノート」に詳細を記し、情報共有を図っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族やサービス事業者に前もって情報を聞き、サービス利用の経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の生活パターンに合わせた対応に努めています。個人記録を活用しながら把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月に一度は、カンファレンスを行い、一人ひとりのケアを振り返り、現状に即した介護計画を作成しています。	カンファレンスには4人から5人程度の職員が参加しています。気付いたことを話し合い、長期・短期の目標設定をしています。さらに日々の介護サービスについては具体的な項目を掲げ、日誌に転記し、その日の担当者がチェックして、モニタリングを実施しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケアの実践等は、毎日、個人記録に記しています。また、毎日申し送りを行い、職員間で情報を共有しながら、ケアの実践や介護計画の見直しに活かせるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	レクリエーションは盛んで、ご利用者の要望や職員の特技を活かしたり、多様な取り組みを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議等の折に、地域の方々から様々な事を伺ったりして、ご利用者が暮らしを楽しんで貰えるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	全体往診や個人往診など定期的を実施されており、ご家族の希望なども伺いながら支援しています。	入居時に訪問医による受診の同意を得て、週1回の往診を実施し、必要時は協力病院につなげています。週1回、訪問歯科の歯科衛生指導や訪問看護師の健康管理の実施、個別に精神科や整形外科などの受診に家族や職員が付き添うなど、適切な医療を支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	往診時には、医師、訪問看護時には看護師に相談しながら、ご利用者が適切な医療を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご利用者と面会を度々行い、早期退院に向けて、病院関係者との情報交換や相談を行い、密な連絡を取り合っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族と状況を把握しながら、当施設でできることを説明したうえで、対応を行なっています。また、柔軟に対応できるよう取り組んでいます。	入居時に看取りの「指針」について説明しています。日常生活の中で清潔保持と苦痛なく安楽に過ごせるよう事業所で出来ることを支援しています。本人の身体状況を看ながら医師・家族・職員と話し合い、家族の揺れ動く気持ちに臨機応変に対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	すべての職員が実践力を身に付けているかどうかはわかりません。研修や勉強会で身に付けていきたいと思っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防設備点検時における避難訓練を実施しています。また、消防署立ち入り調査もありますが、訓練は、十分とは言えないと思います。	職員は年2回消防設備点検時に消火・通報・誘導訓練と備蓄確認をしています。初期消火の役割分担や緊急連絡網、防災ポスターを掲示し、職員は防災意識を持っています。隣接境界フェンスの一部を開閉し近隣住民協力時の動線や避難場所の確保を図っています。	地域の防災活動に参加し、事業所への理解や協力関係を築き、職員の少ない夜間を想定した地域住民参加の訓練や地震時の地域住民の受け入れなど災害時の相互協力体制を築く取り組みが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう言葉かけや対応には気を使っています。	自己決定を促す声掛けとして「どうしますか」や、子ども扱いしないなど、尊厳に配慮しています。排泄時のさりげない誘導や腹部にタオルをかける、また入浴時は同性介助や自立者には脱衣室で待機するなどプライバシーや人格を尊重した対応をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご自分で出来ることは、時間が掛かってもなるべくして頂くよう支援しています。小さなことでも、ご自分で決めて頂くようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースは、大切にしています。なるべく希望にかなうよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝の整容や入浴時の着替え等は、ご利用者に決めて貰えるよう支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	普段の食事時には、それぞれが役割を持っています。また、昼食レクリエーションの折には、ご利用者の要望も考慮し人気のメニューで実施し、協力しあって楽しめるよう支援しています。	調理・盛り付け・配下膳・食器洗いなどそれぞれのできることを女性はエプロンをし、男性も交じり自ら率先、協力して取り組んでいます。月1回実施する昼食レクは、利用者の要望の巻き寿司や、おやつにお汁粉など、皆で作り、楽しみの時間となっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの食事摂取量や水分量は毎食後、記録に残し、一日のなかでバランスが摂れる様、支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、一人ひとりの状態にあった口腔ケアを実施しています。また、訪問歯科の指導も実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄表を記録し、排泄パターンを把握し、気持ちよく排泄出来る様、支援しています。	排泄介助は人として最後の介助との思いや、オムツでなく布パンツの使用に取り組み、トイレでの排泄を促しています。安全に自立排泄ができるようトイレ内に手すりやひじ掛けなどを設置しています。職員は失禁の要因を考え、早期誘導などで失禁予防に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	運動をしながら、自力排便を促すよう支援していますが、薬でコントロールされている方は、毎日、注意を払っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴剤など、なるべくご利用者が楽しんで貰えるよう工夫しています。しかし、時間帯に関しては、午後実施しています。その中での時間は希望に添えるようにしています。	入浴は週2回を基本とし、希望に応じて回数を増やし、対応しています。個々の好みの湯温、入浴時間で入浴剤や行事湯でリラックスし楽しみながら入浴できるよう支援しています。浴槽内に腰かけ昇降ができる設備を設置し、安全に湯船につかるよう工夫しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼間は適度に活動していただいたりして、夜間気持ちよく安眠できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員間で、個々の薬の情報は共有しており、変更時には、情報を伝え、症状の把握に努めています。また、服薬時にはダブルチェックを行い、間違いのないよう気を付けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりに合った楽しみや気分転換に添えるよう支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的には、散歩や外気浴をしています。ご家族との外出、地域の方との外出は、ご本人の希望を把握したうえで、協力しています。	利用者の体調や要望に応じて近隣の散歩や日常的に事業所下の畑で外気浴をしています。季節感を感じる、桜や紅葉見物などのバスハイクを全員に実施しています。また、家族とカラオケ、墓参り、法事、帰宅などや、ボランティアの協力で投票所へも出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	おこずかいは、施設にてお預かりしていますが、購入したい物があつたりした時には、一緒に買い物に行き、ご利用者に支払っていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙そ支援は、希望に添えるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間や居室の清掃は、毎朝、職員とご利用者で行い、清潔に保てる様にしてあります。壁面には、レク製作や行事写真などを飾ったり、季節の花を飾ったりして、居心地良く過ごせるよう工夫しています。	居間は調理の臭いがし、居間には万国旗の飾りや写真を展示、散歩時に摘んだ花を活けて生活感や季節感を採り入れています。廊下に歩行訓練の回数を東海道や相撲番付に名擬えて掲示したり、貼り絵の狸が玄関ホールで出迎えたり、また、折り紙作品などを飾り、温かな空間づくりに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご利用者同志、リラックスされ、話に興じられている時には、見守っていたり、一人、ぽつんとしておられるときなどには、職員が声掛けしたりしています。また、居室で趣味のことをしている時は、時々見守りのため、訪室しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室では、思い思いに趣味の事をされていたり、テレビ観たり、読書をされています。また、使い慣れたものや好みのものは、自由にいただいています。	各居室には手作りの表札を掲げ、室内には家族写真や趣味の作品、花などを飾り、持ち込んだテレビで趣味の囲碁を楽しんだり、思い思いに過ごせるよう支援しています。ナースコールを居室出入り口扉の上に設置し、利用する時は一目でわかるように工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの出来る事を把握し、自立に向けた支援をしています。日々の掃除や食事など、一人ひとりが、職員と共に、共同で行っています。		

事業所名	グループホーム あいかわ
ユニット名	3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念は、玄関に掲示しています。また、新入職員にも理念を説明し、理念を念頭に置き業務にあたる様説明しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	どんど焼き・盆踊り・地区運動会・公民館まつり・子供みこし等、様々な行事に参加したり、また、当施設の行事には、参加をお願いしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	中学生職場体験を毎年、実施しています。また、毎月、ボランティアさんにも支援して頂いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年6回、開催しています。地域包括・地区・ご家族などに参加して頂き、事業所よりの報告、また、様々な情報交換や話し合いを行い、意見をサービス向上に行かせるよう努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	役場には度々訪れ、各担当者とは日頃より密に連絡を取り合っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの実践をしています。玄関の施錠は、やむを得ず、安全のために実施しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待についての勉強会を実施しています。また、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	個々に学んでいる職員はいるが、職場での学ぶ機会はなかったため、学ぶ機会を設けていきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、解約時には、十分な説明を行い、理解・納得を得られるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族やご利用者からの要望や意見があった時は、それらを運営に反映させるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議・カンファレンス会議などの時に職員の意見や要望を聞いています。また、普段から話しやすい環境作りに努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個々に評価を行い、努力している職員にはきちんとした評価をすることで、仕事に対する意欲をもって貰えるよう努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人は職員の資格取得を推奨しています。職場では、ユニット会議等の折に勉強会を実施しています。その他、外部や福祉協議会等で開催される研修を掲示し、参加したい職員には勤務表の変更も考慮し、参加出来る様支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域の介護施設を訪問したり、社会福祉法人等代表者会議に出席したり、交流や情報交換をしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前からアセスメント情報を把握したうえで、本人が安心して暮らすことができるように努めています。また、初期に築く関係は大変重要なことなので、努力しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始時には、ご本人やご家族の話に耳を傾け、不安解消や要望に沿うことができるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所時には、ご本人やご家族の話に耳を傾け、真のニーズを見極めることができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	立場にこだわらず、家で暮らしているような家庭的な雰囲気作りに努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時間に特に制限はなく、ご家族がいつでも面会に訪れることが出来ます。面会に訪れるご家族も多くみられます。ご家族と過ごす時間を大切にしたい環境作りをしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めています。	手紙や電話などご利用者の希望に沿えるよう支援しています。また、散歩や外出でお会いした知人の方々には、施設に遊びに来て頂くよう、お誘いしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションや散歩等の声掛けは、ご利用者全員にしています。ご利用者が孤立しない支援を心掛けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了時には、困った時にはいつでも相談に来てくれるよう声掛けしています。また、契約終了後にも施設に立ち寄ってくれ、ご本人の近況を話して頂いたりという方が、複数おられます。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの意向に添えるよう、職員間で把握するよう努め、その人らしい暮らしが出来るよう支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族やサービス事業者に前もって情報を聞き、サービス利用の経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の生活パターンに合わせた対応に努めています。個人記録を活用しながら把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月に一度は、カンファレンスを行い、一人ひとりのケアを振り返り、現状に即した介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケアの実践等は、毎日、個人記録に記しています。また、毎日申し送りを行い、職員間で情報を共有しながら、ケアの実践や介護計画の見直しに活かせるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	レクリエーションは盛んで、ご利用者の要望や職員の特技を活かしたり、多様な取り組みを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議等の折に、地域の方々から様々な事を伺ったりして、ご利用者が暮らしを楽しんで貰えるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	全体往診や個人往診など定期的実施されており、ご家族の希望なども伺いながら支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	往診時には、医師、訪問看護時には看護師に相談しながら、ご利用者が適切な医療を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご利用者と面会を度々行い、早期退院に向けて、病院関係者との情報交換や相談を行い、密な連絡を取り合っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族と状況を把握しながら、当施設でできることを説明したうえで、対応を行なっています。また、柔軟に対応できるよう取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	すべての職員が実践力を身に付けているかどうかはわかりません。研修や勉強会で身に付けていきたいと思っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防設備点検時における避難訓練を実施しています。また、消防署立ち入り調査もありますが、訓練は、十分とは言えないと思います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう言葉かけや対応には気を使っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご自分で出来ることは、時間が掛かってもなるべくして頂くよう支援しています。小さなことでも、ご自分で決めて頂くようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースは、大切にしています。なるべく希望にかなうよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝の整容や入浴時の着替え等は、ご利用者に決めて貰えるよう支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	普段の食事時には、それぞれが役割を持っています。また、昼食レクリエーションの折には、ご利用者の要望も考慮し人気のメニューで実施し、協力しあって楽しめるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの食事摂取量や水分量は毎食後、記録に残し、一日のなかでバランスが摂れる様、支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、一人ひとりの状態にあった口腔ケアを実施しています。また、訪問歯科の指導も実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄表を記録し、排泄パターンを把握し、気持ちよく排泄出来る様、支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	運動をしながら、自力排便を促すよう支援していますが、薬でコントロールされている方は、毎日、注意を払っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴剤など、なるべくご利用者が楽しんで貰えるよう工夫しています。しかし、時間帯に関しては、午後を実施しています。その中での時間は希望に添えるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼間は適度に活動していただいたりして、夜間気持ちよく安眠できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員間で、個々の薬の情報は共有しており、変更時には、情報を伝え、症状の把握に努めています。また、服薬時にはダブルチェックを行い、間違いのないよう気を付けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりに合った楽しみや気分転換に添えるよう支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的には、散歩や外気浴をしています。ご家族との外出、地域の方との外出は、ご本人の希望を把握したうえで、協力しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	おこずかいには、施設にてお預かりしていますが、購入したい物があつたりした時には、一緒に買い物に行き、ご利用者に支払っていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙そ支援は、希望に添えるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間や居室の清掃は、毎朝、職員とご利用者で行い、清潔に保てる様にしています。壁面には、レク製作や行事写真などを飾ったり、季節の花を飾ったりして、居心地良く過ごせるよう工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご利用者同志、リラックスされ、話に興じられている時には、見守っていたり、一人、ぽつんとしておられるときなどには、職員が声掛けしたりしています。また、居室で趣味のことをしている時は、時々見守りのため、訪室しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室では、思い思いに趣味の事をされていたり、テレビ観たり、読書をされています。また、使い慣れたものや好みのものは、自由に使っていただいています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの出来る事を把握し、自立に向けた支援をしています。日々の掃除や食事など、一人ひとりが、職員と共に、共同で行っています。		

平成29年度

目標達成計画

事業所名 グループホームあいかわ

作成日： 平成 30年 1月 11日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	7	新旧職員の情報共有手段として、これまでに積み上げた決定事項の履歴が読み取れるような書類の整備が必要である。	書類の整備ができ、職員間の情報共有が密になる。	今後のユニット会議等で、実践に向けた話し合いを持つ。	6ヶ月
2	13	昼夜を問わずの火災や地震等の災害時を想定した訓練が十分とは言えない。	災害時における訓練が定期的に行えるようにしていきたい。	運営推進会議等で、災害時における地域・施設双方の協力体制の話し合いを継続して行っていく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月